

I 調査結果の概要

1 平成23年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類で1万5,780ha、球根類で478ha、鉢ものの類で1,833ha、花壇用苗ものの類で1,559haとなっており、前年産に比べてそれぞれ420ha（3%）、27ha（5%）、26ha（1%）、10ha（1%）減少した。

出荷量は、切り花類で41億6,400万本、球根類で1億3,400万球、鉢ものの類で2億5,390万鉢、花壇用苗ものの類で7億860万本となっており、前年産に比べてそれぞれ1億8,700万本（4%）、1,550万球（10%）、730万鉢（3%）、1,310万本（2%）減少した。

表1 平成23年産花きの類別作付(収穫)面積及び出荷量(全国)

類別	作付(収穫)面積	出荷量	対前年産比	
			作付(収穫)面積	出荷量
	ha	万本(球・鉢)	%	%
切り花類	15,780	416,400	97	96
球根類	478	13,400	95	90
鉢ものの類	1,833	25,390	99	97
花壇用苗ものの類	1,559	70,860	99	98

- 注：1 調査は主産県を対象に実施しており、全国値については主産県の結果を基に推計した（以下の表について同じ。）。
 2 切り花類、鉢ものの類及び花壇用苗ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である（以下の表について同じ。）。
 3 球根類及び鉢ものの類は、収穫面積である。
 4 出荷量の単位は、切り花類及び花壇用苗ものの類が万本、球根類が万球、鉢ものの類が万鉢である。

2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

作付面積は1万5,780haで、前年産に比べて420ha（3%）減少した。品目別にみると、スターチス及びアルストロメリアが増加したものの、きく等が減少した。

出荷量は41億6,400万本で、前年産に比べて1億8,700万本（4%）減少した。

なお、品目別にみた出荷量の構成割合は、きくが38%、カーネーションが8%、ばらが7%となっており、この3品目で全体の約5割を占めている。

図1 切り花類の品目別出荷量割合

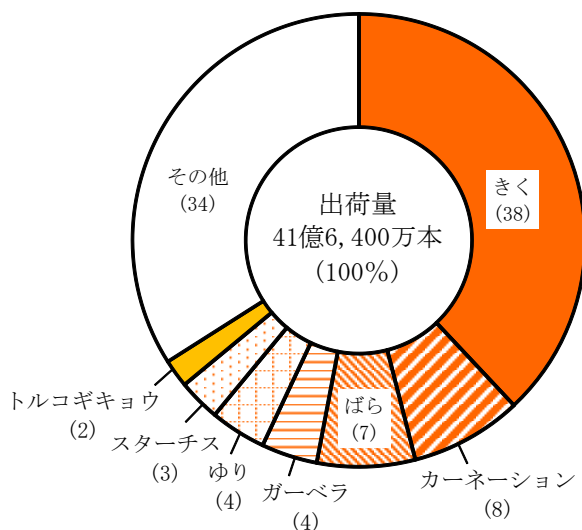


図2 切り花類の作付面積と出荷量の推移

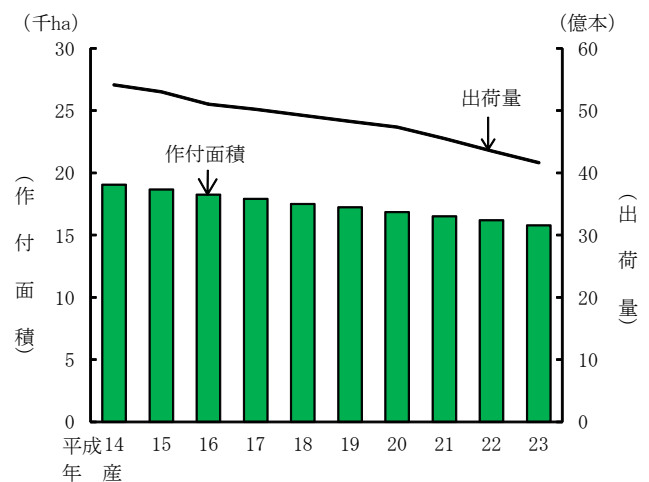


表2 平成23年産切り花類の作付面積及び出荷量(全国)

品 目	作 付 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			作 付 面 積	出 荷 量
	ha	万本	%	%
切 り 花 類	15,780	416,400	97	96
う ち ぎ	5,233	159,700	98	96
う ち 輪 ぎ	2,754	86,630	96	96
ス プ レ イ ぎ	751	25,260	96	92
小 ぎ	1,727	47,850	102	99
カ ー ネ ー シ ョ ン	378	33,120	97	96
ば ら	419	30,040	97	95
宿 根 か す み そ う	253	5,900	99	96
洋 ラ ン 類	161	2,000	96	98
ス タ ー チ ス	214	12,290	105	110
ガ ー ベ ラ	93	16,510	99	99
ト ル コ ギ キ ョ ウ	439	10,100	97	95
ゆ り	833	15,500	97	98
ア ル ス ト ロ メ リ ア	91	6,200	103	104
切 り 葉	742	15,470	97	89
切 り 枝	3,707	21,310	97	95

ア きく

作付面積は5,233haで、鹿児島県等で減少したことから、前年産に比べて98ha（2%）減少した。出荷量は15億9,700万本で、前年産に比べて6,300万本（4%）減少した。これは、需要の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が28%、沖縄県が18%となっており、この2県で全国の約5割を占めている。

また、品目別にみた出荷量の構成割合は、輪ぎくが54%、小ぎくが30%、スプレイぎくが16%となっている。

図3 きくの都道府県別出荷量割合

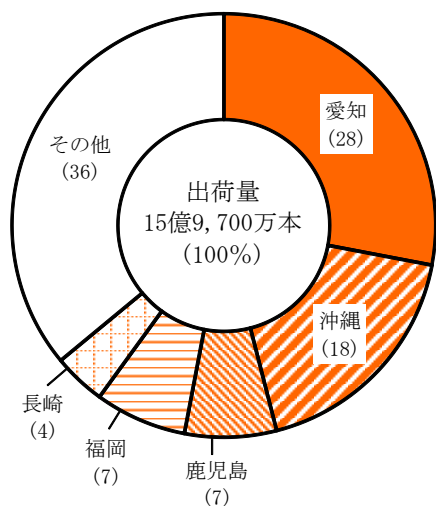


図4 きくの品目別出荷量割合

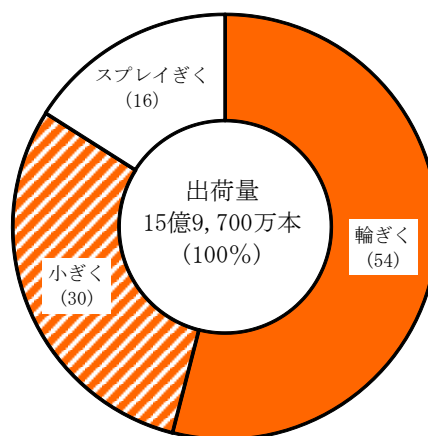


図5 きくの作付面積と出荷量の推移

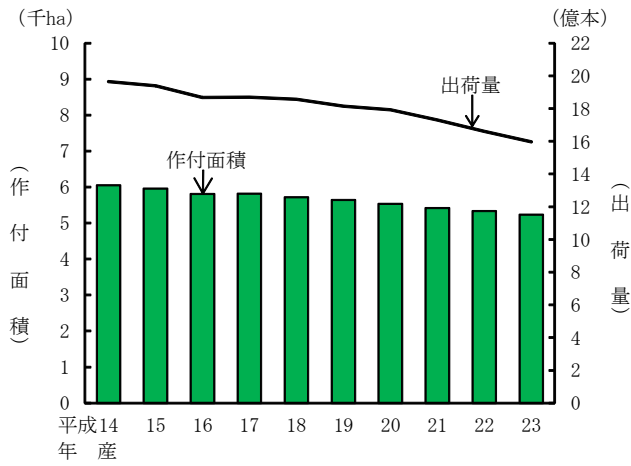


図6 輪ぎくの作付面積と出荷量の推移

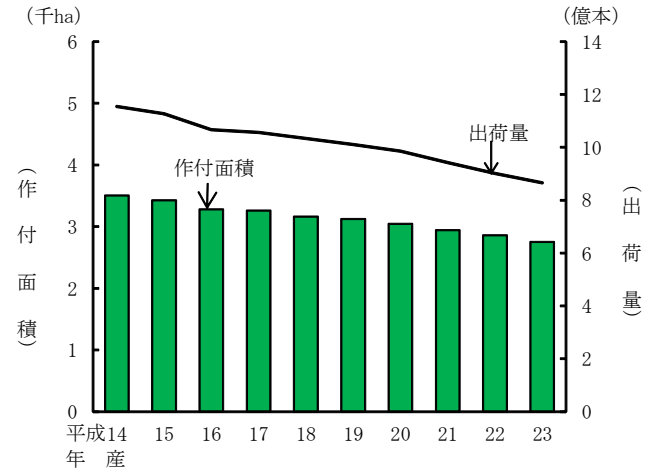


図7 スプレイぎくの作付面積と出荷量の推移

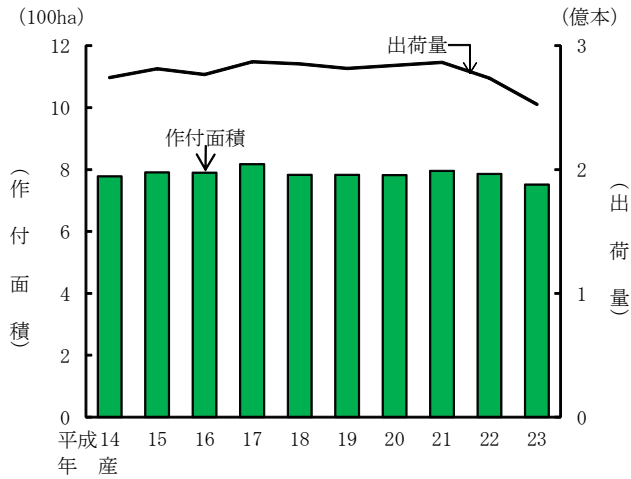
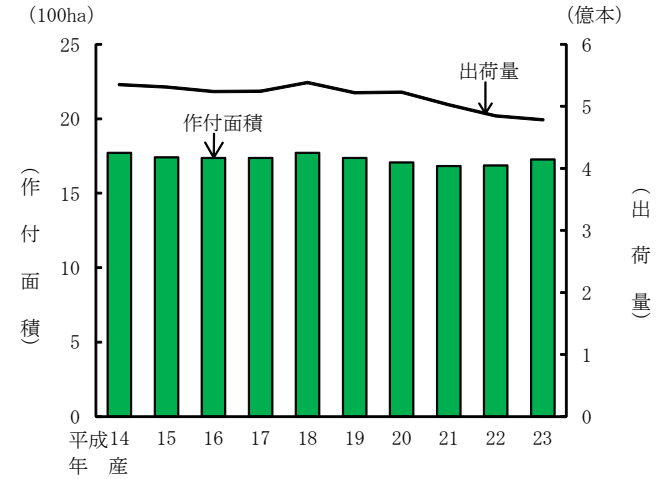


図8 小ぎくの作付面積と出荷量の推移



イ カーネーション

作付面積は378haで、北海道、愛知県等で減少したことから、前年産に比べて12ha（3%）減少した。

出荷量は3億3,120万本で、前年産に比べて1,210万本（4%）減少した。これは、燃油価格の高騰に伴う影響等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が19%、愛知県が17%、兵庫県が12%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図9 カーネーションの都道府県別出荷量割合

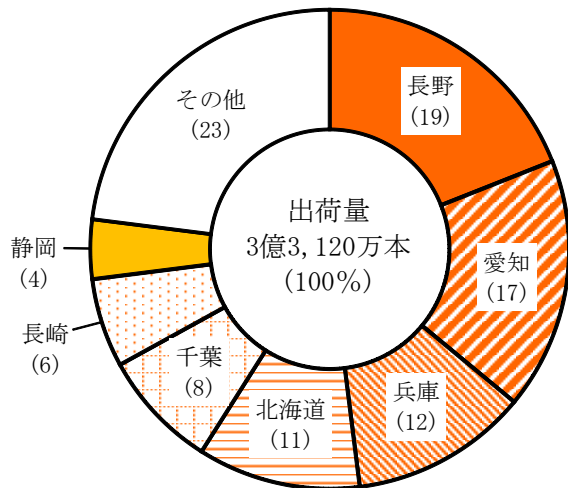
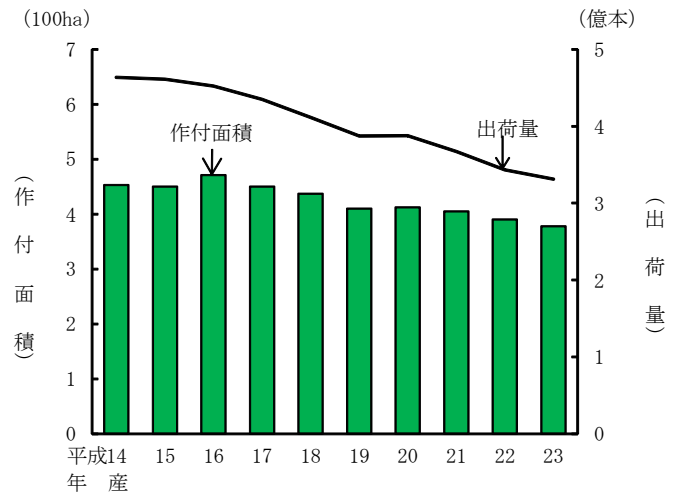


図10 カーネーションの作付面積と出荷量の推移



ウ ばら

作付面積は419haで、静岡県等で減少したことから、前年産に比べて13ha（3%）減少した。

出荷量は3億40万本で、前年産に比べて1,530万本（5%）減少した。これは、燃油価格の高騰に伴う影響等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が18%、静岡県が9%、福岡県が6%となっており、この3県で全国の約3割を占めている。

図11 ばらの都道府県別出荷量割合

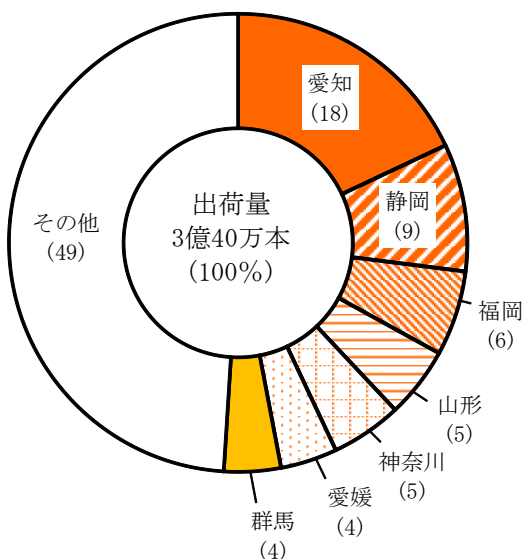
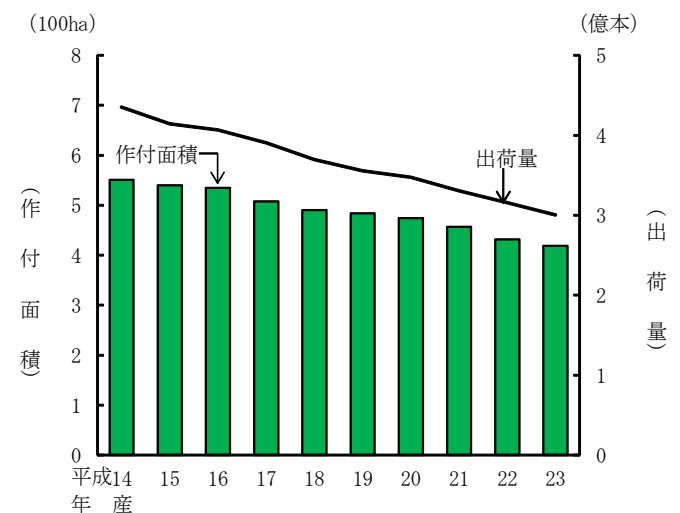


図12 ばらの作付面積と出荷量の推移



エ トルコギキョウ

作付面積は439haで、福島県等で減少したことから、前年産に比べて15ha（3%）減少した。

出荷量は1億100万本で、前年産に比べて550万本（5%）減少した。これは、需要の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が13%、熊本県が10%、福岡県が9%となっており、この3県で全国の約3割を占めている。

図13 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合

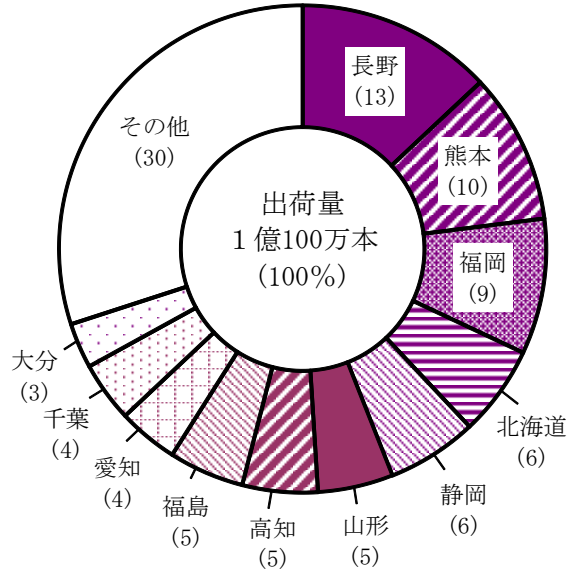
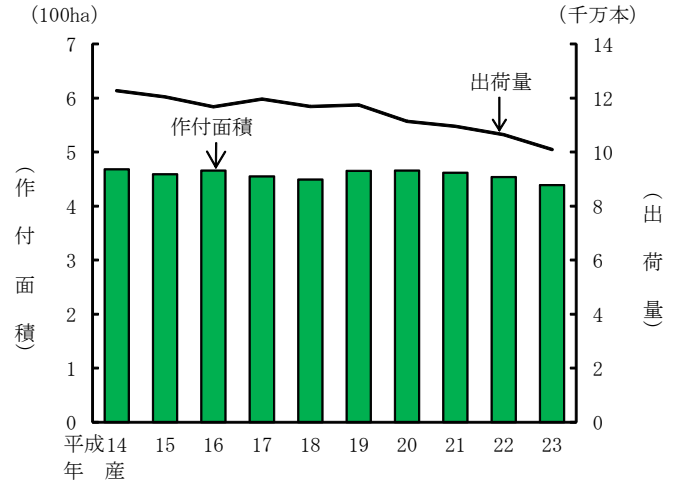


図14 トルコギキョウの作付面積と出荷量の推移



オ ゆり

作付面積は833haで、福島県、鹿児島県等で減少したことから、前年産に比べて22ha（3%）減少した。

出荷量は1億5,500万本で、前年産に比べて290万本（2%）減少した。これは、作付面積の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、埼玉県が18%、高知県が13%、新潟県が11%となっており、この3県で全国の約4割を占めている。

図15 ゆりの都道府県別出荷量割合

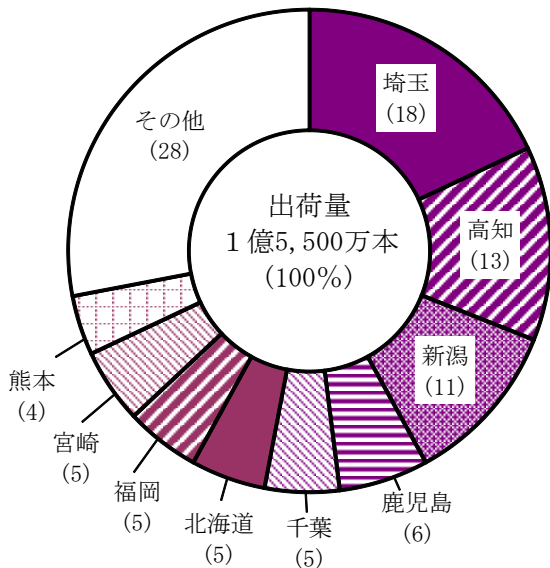
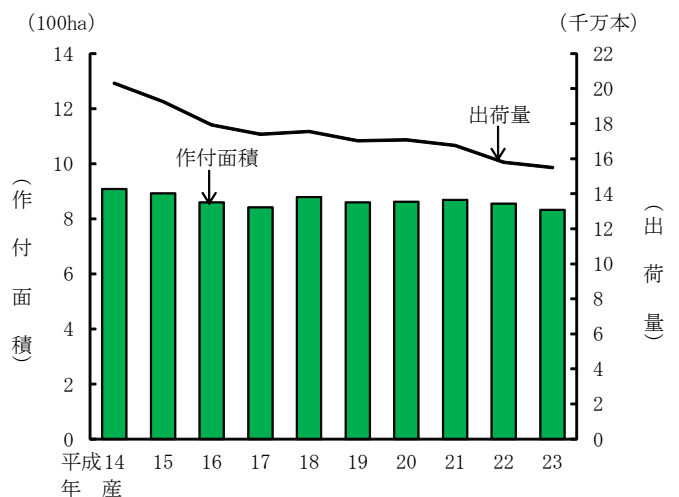


図16 ゆりの作付面積と出荷量の推移



(2) 球根類

収穫面積は478haで、前年産に比べて27ha（5%）減少した。

出荷量は1億3,400万球で、前年産に比べて1,550万球（10%）減少した。これは、収穫面積の減少、春先の低温の影響等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、鹿児島県が21%、新潟県が19%、富山県が17%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図17 球根類の都道府県別出荷量割合

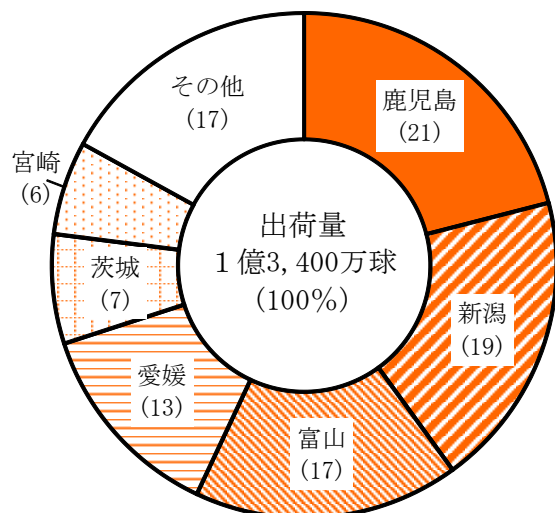
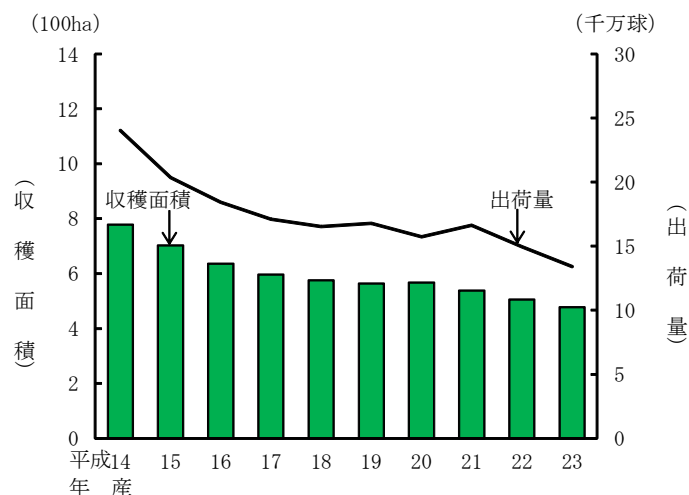


図18 球根類の収穫面積と出荷量の推移



(3) 鉢ものの類

収穫面積は1,833haで、前年産に比べて26ha（1%）減少した。品目別に見ると、花木類が増加したものの、シクラメン、洋ラン類及び観葉植物が減少した。

出荷量は2億5,390万鉢で、前年産に比べて730万鉢（3%）減少した。

なお、品目別にみた出荷量の構成割合は、花木類が21%、観葉植物が18%、シクラメンが8%、洋ラン類が7%となっており、この4品目で全体の約5割を占めている。

表3 平成23年産鉢ものの類の収穫面積及び出荷量(全国)

品目	収穫面積	出荷量	対前年産比	
			収穫面積	出荷量
	ha	万鉢	%	%
鉢ものの類	1,833	25,390	99	97
うちシクラメン	208	2,040	98	100
洋ラン類	232	1,720	97	99
観葉植物	323	4,460	98	99
花木類	443	5,350	106	109

図19 鉢ものの類の品目別出荷量割合

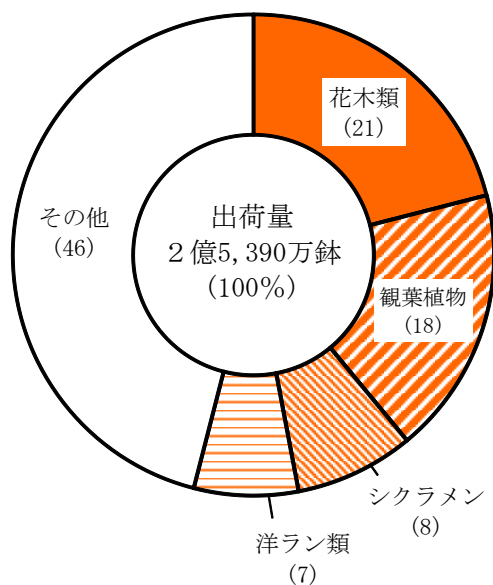
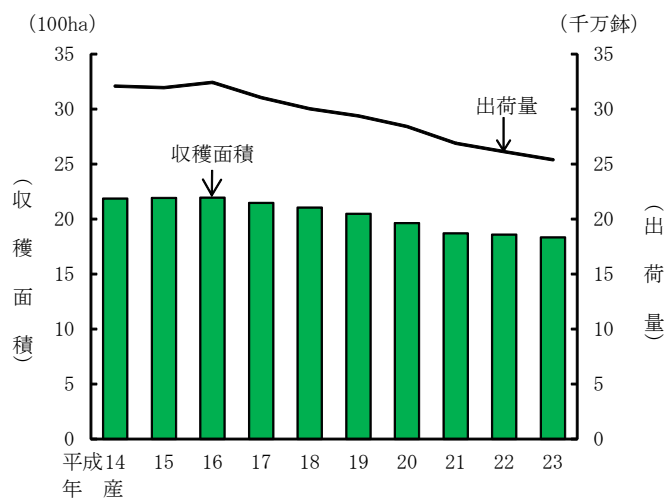


図20 鉢ものの類の収穫面積と出荷量の推移



ア シクラメン

収穫面積は208haで、福島県、島根県等で減少したことから、前年産に比べて4 ha（2%）減少した。

出荷量は2,040万鉢で、前年産並みであった。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が14%、愛知県が12%、茨城県及び栃木県が6%となっており、この4県で全国の約4割を占めている。

図21 シクラメンの都道府県別出荷量割合

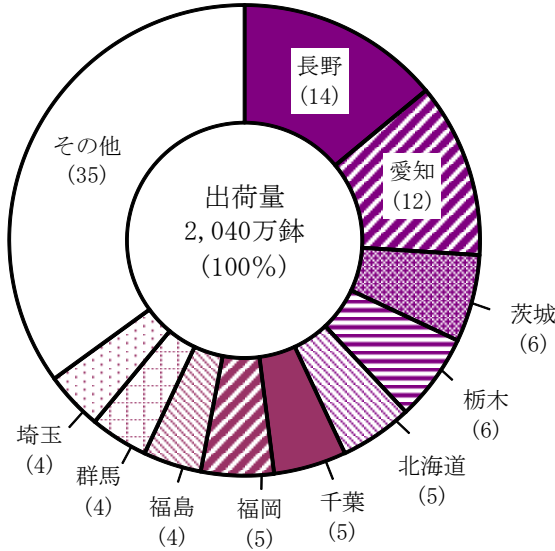
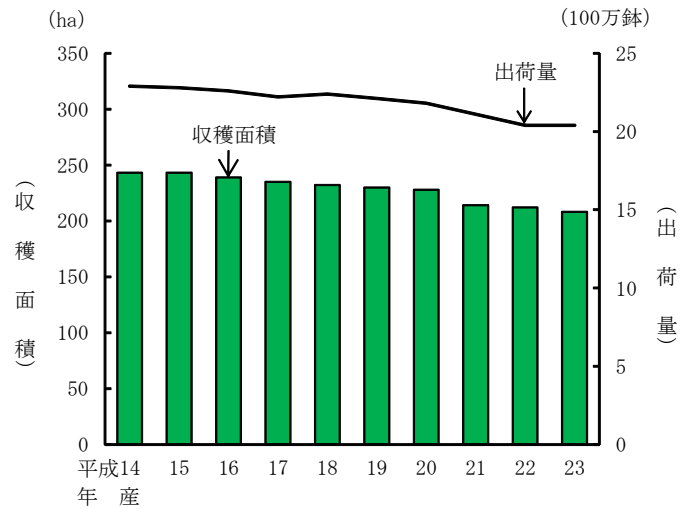


図22 シクラメンの収穫面積と出荷量の推移



イ 洋ラン類

収穫面積は232haで、宮城県、宮崎県等で減少したことから、前年産に比べて6 ha（3%）減少した。

出荷量は1,720万鉢で、前年産に比べて20万鉢（1%）減少した。これは、収穫面積の減少、燃油価格の高騰に伴う影響等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が23%、福岡県及び熊本県が10%となっており、この3県で全国の約4割を占めている。

図23 洋ラン類の都道府県別出荷量割合

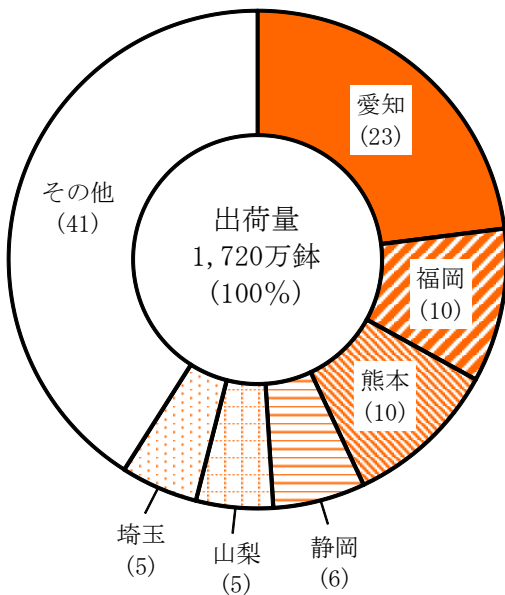
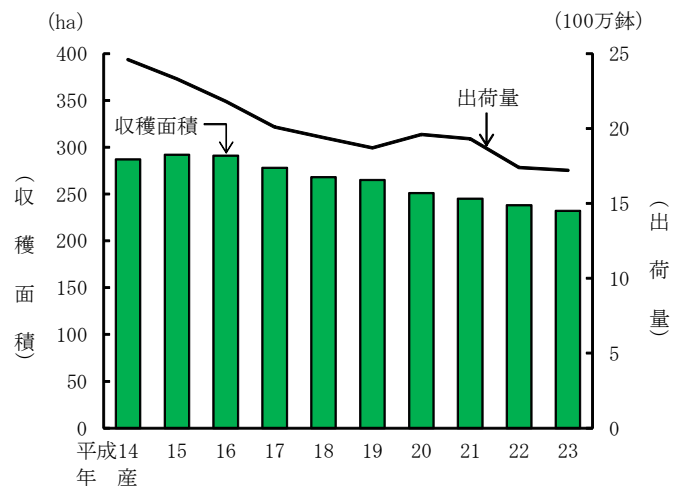


図24 洋ラン類の収穫面積と出荷量の推移



(4) 花壇用苗もの類

作付面積は1,559haで、前年産に比べて10ha（1%）減少した。

出荷量は7億860万本で、前年産に比べて1,310万本（2%）減少した。これは、需要の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が9%、千葉県が8%、埼玉県が7%、福岡県及び奈良県が5%となっており、この5県で全体の約3割を占めている。

表4 平成23年産花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量(全国)

品 目	作 付 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			作 付 面 積	出 荷 量
	ha	万本	%	%
花 壇 用 苗 も の 類	1,559	70,860	99	98
う ち パ ン ジ ー	313	15,940	100	97

図25 花壇用苗もの類の都道府県別出荷量割合

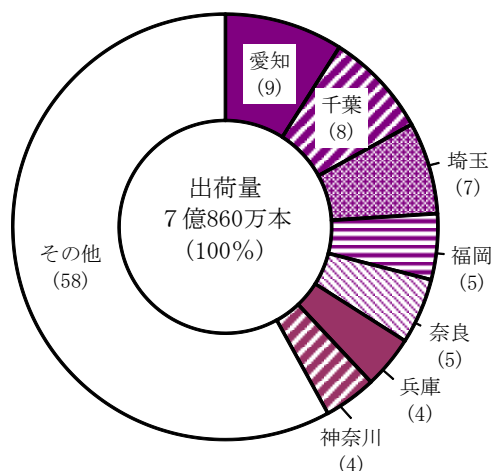
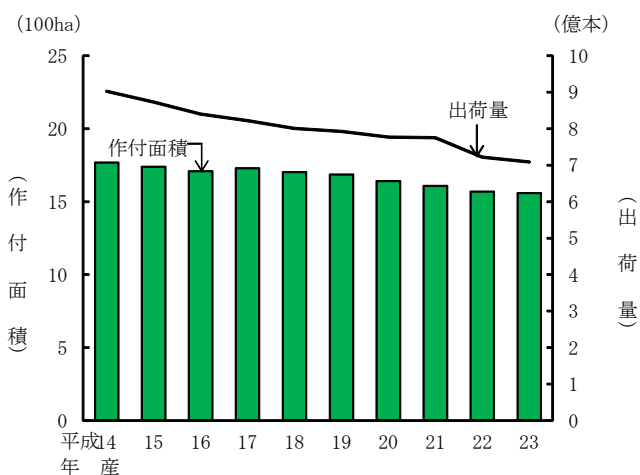


図26 花壇用苗もの類の作付面積と出荷量の推移



パンジー

作付面積は313haで、前年産並みであった。

出荷量は1億5,940万本で、前年産に比べて430万本（3%）減少した。これは、需要の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、埼玉県及び奈良県が7%、神奈川県及び愛知県が6%、千葉県が5%となっており、この5県で全体の約3割を占めている。

図27 パンジーの都道府県別出荷量割合

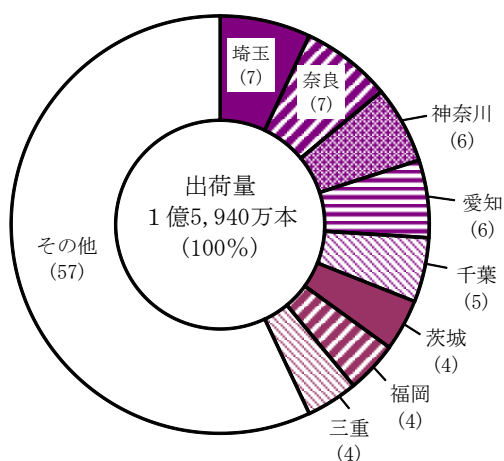


図28 パンジーの作付面積と出荷量の推移

